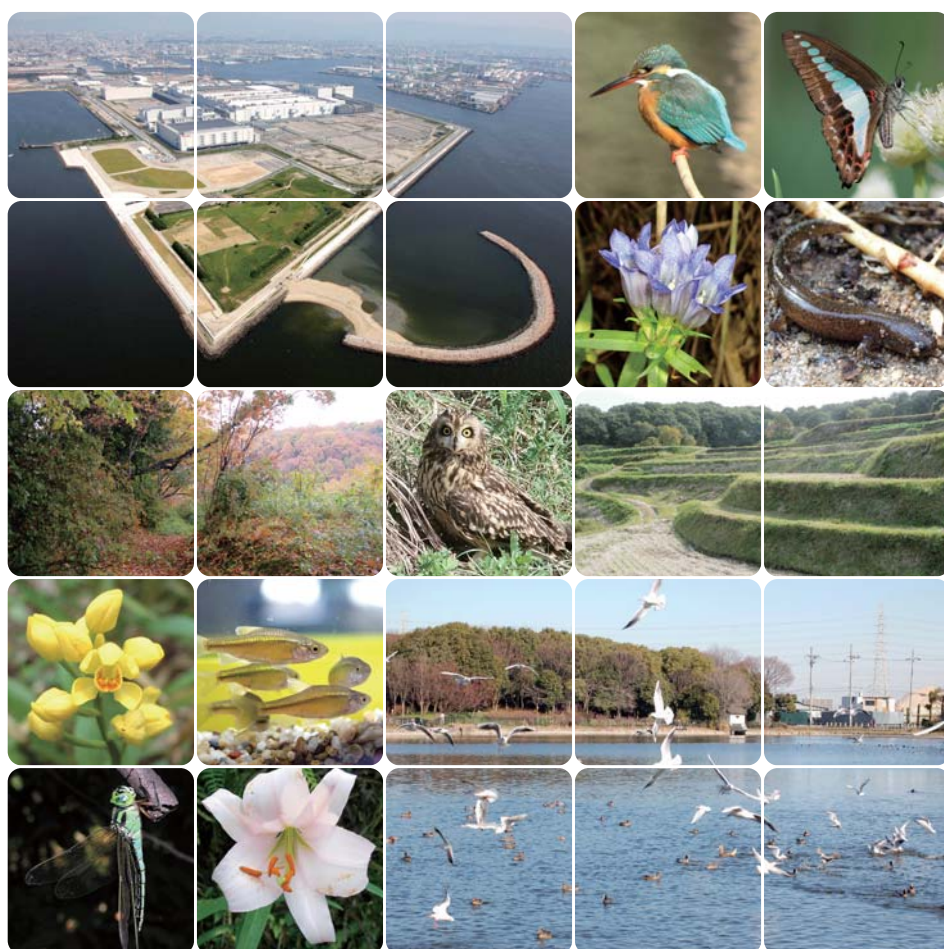




生物多様性・堺戦略

～自然と共生するまちづくりをめざして～



生物多様性とは

生物多様性とは、「すべての生物の間に違いがあること」であり、生物多様性には「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」という3つのレベルでの多様性があるとされています。

〈生態系の多様性〉



いろいろなタイプの自然があります

〈種の多様性〉



いろいろな種類の生き物があります

〈遺伝子の多様性〉



同じ種でも多様な個性があります

生物多様性の恵み

地球の生物多様性は長い歴史の中で形づくられたかけがえのないものです。堺市のような都市の中で生活していると生物多様性の恩恵を受けていることを忘れがちですが、私たち人間は、実にさまざまな生物多様性の恵みを得て生活しています。この生態系によってもたらされる恵みは「生態系サービス」と呼ばれ次の4つに分類されます。

供給サービス

米や野菜、肉や魚といった食料、木材や燃料、衣類（繊維）など、私たちの日常生活に欠かせないさまざまな資源は、生き物から得られています。

調整サービス

森林による洪水や土砂崩れの防止、気象の緩和や水の浄化機能など、環境を制御する生態系の機能は私たちの暮らしを守ってくれています。

文化サービス

地域の自然に根ざした伝統文化や生き物をモチーフにした芸術、食文化など、多くの地域固有の文化は、その地域に固有の生態系によって育まれてきました。

基盤サービス

土壌の形成や、光合成による酸素の生成など、全ての生命の基盤は、生物多様性の恵みの継続的な提供に支えられています。

生物多様性の危機

今、生物多様性は危機を迎えています。現代は、地球に生命が誕生して以来6回目となる「第6の大量絶滅時代」ともいわれており、現在進行している大量絶滅の主な原因は、人間活動による影響であると考えられています。人間の影響で生物多様性が損なわれる原因は大きく次の4つに分類されます。

開発など人間活動による危機

森林伐採や埋め立てなどによる自然改変によって、多くの生物の生息地や生育場所が奪われています。また、動植物の乱獲などによって、生物の個体数が減少し絶滅のリスクが高まっています。



市街地が迫る里山

自然に対する働きかけの縮小による危機

里地里山が、農業形態や生活様式の変化などによって利用されなくなったことで荒廃してしまい、その環境特有の生物が減少しています。



荒れた里山林

人間により持ち込まれたものによる危機

生物の本来の移動能力を超えて人間が持ち込んだ生き物（外来生物）が、もともといる生き物（在来生物）を捕食したり、餌を奪ったりすることで、地域固有の生物相や生態系に対して大きな脅威となっています。

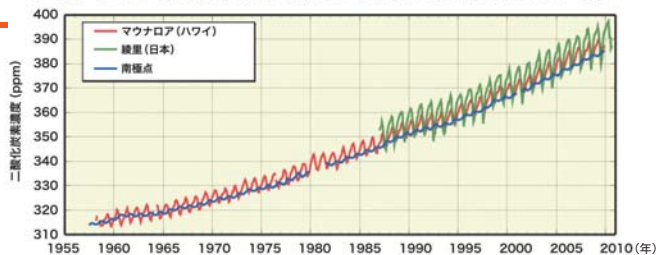


セアカゴケグモ：オーストラリア原産メスは有毒であり刺噛により人に被害を及ぼす

地球環境の変化による危機

人間活動による温室効果ガス濃度の増加などによって世界の平均気温が上昇すると、多くの種はその変化に適応できず、絶滅リスクが高まると予測されています。

大気中の二酸化炭素濃度の経年変化（過去50年）



出典：気候変動監視レポート2010

全国地球温暖化防止活動推進センターWebサイト
(<http://www.jccca.org/>) より

生物多様性を守る意味

自然界は長い歴史を経て、非常に複雑なバランスのもとで成り立っているため、もし、回復が不可能な状態に陥った場合、全く同じ生態系を人間が作り出すことはできません。

私たちが生態系の保全や生態系サービスの持続可能な利用を心がけなければ、生物多様性の損失によってその恵みに支えられている私たちの生活は脅かされることとなります。

私たちは将来の世代のためにも、生物多様性の保全と持続可能な利用を図らなければなりません。

堺の生物多様性

○堺市の生物多様性の現状

堺市には、南部丘陵・農地・古墳・社寺林・公園・海・川・ため池といったさまざまな自然と生態系があり、その生態系に応じた特徴的な生き物が生息しています。



南部丘陵（南区）



ニサンザイ古墳（北区）の墳丘部



堺2区（堺区）の人工干潟



菰池（こもいけ）（中区）

オオタカ・カワバタモロコ・シリブカガシ・キンランなど、堺市レッドリスト掲載種の多くが確認されている南部丘陵、チュウヒやツバメチドリの繁殖が確認され、人工干潟の造成など生物多様性に寄与する生育環境の整備が行われている臨海部、その他、古墳・社寺林・公園といった都市における緑地も堺市の生物多様性を維持する上で重要な場所（生物多様性ホットスポット）です。



オオタカ（Aランク：最重要保護）



チュウヒ（Aランク）



カワバタモロコ（Aランク）



シリブカガシ（要注目）



キンラン（Aランク）



ゲンジボタル（Bランク）



トラフシジミ（Cランク）

○堺市の生物多様性の課題

- ◎南部丘陵、臨海部などの拠点と都市部に残された生態系をつなぐ生態系ネットワークを形成し、生き物がつながる環境をつくる必要があります。

生態系ネットワーク イメージ図



- ◎外来生物の増加による生態系の悪化が問題となっていることから、侵略的外来生物（在来生物を脅かす外来生物）を排除することが重要です。



ブルーギルとオオクチバス

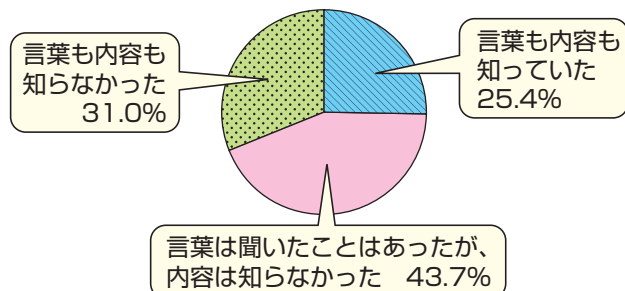


アライグマ

- ◎「生物多様性」の言葉の意味の認知度(25.4%)が低いことから、その認知度を高める必要があります。

- ◎全ての市民が生物多様性に配慮してくらし、生物多様性を高める取り組みを進める必要があります。

「生物多様性」という言葉を知っていましたか？



生物多様性に関する市民アンケート(2012年実施)結果

生物多様性・堺戦略とは

生物多様性基本法に基づく生物多様性地域戦略であり、堺の特徴的な自然を活かした生物多様性の保全・再生と持続可能な利用に関する基本的かつ総合的な計画です。

◎基本理念

「自然と共生するまちづくりをめざして」

- 私たちの生活や文化が、生物多様性の恵みからもたらされていることを多くの市民に理解してもらいながら、その保全と持続可能な利用に取り組みます。
- 堺の在来生物に配慮しながら、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組みます。
- 市民、事業者、NPO、行政などさまざまな主体が協働しながら、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組みます。

◎長期目標(将来像)

生物多様性への市民の理解が進み、生物多様性に配慮した行動を一人ひとりが行うことで、森・里・川・海のつながりが確保された豊かな自然と共生するまち・堺をめざします。

目標年次：2022年度（10年後）

(一部抜粋)

- ◆堺市レッドリスト掲載種数を増やさない（絶滅危惧種を増やさない）

2007年度 574種 ⇒ 2022年度 574種

- ◆市民の「生物多様性」の言葉も内容も知っている人の割合（認知度）

2012年度 25.4% ⇒ 2022年度 50%*

- ◆生物多様性の保全を推進する活動への参加割合

2012年度 19.5% ⇒ 2022年度 40%*

※いずれも18歳以上の割合



◎4つの戦略

基本理念の実現に向けて、次の4つの戦略に基づいた施策を実施します。

戦略1 ▶ 生態系の保全・再生・創造と継承

- ・ 南部丘陵の里地里山に生息する生き物の保全に取り組みます。
- ・ 外来生物対策の実施による生物多様性の再生に取り組みます。
- ・ 臨海部における生物の生息・生育環境の創造を図ります。
- ・ 歴史あるまちの市街地に残る自然を継承します。



人工干潟（堺2区）

戦略2 ▶ 生態系ネットワークに配慮したまちづくりの推進

- ・ 森・里・川・海をつなぐ水と緑の生態系ネットワークの形成を進めます。
- ・ 森・里・川・海の豊かな生物相の回復をめざします。

戦略3 ▶ 普及啓発・環境教育の推進

- ・ 生物多様性の理解を深めるために普及啓発活動を行います。
- ・ 市民や子どもたちに生物多様性に関する環境教育を実施し、ESD(持続発展教育)の理念に基づいた環境活動の担い手を育成します。

戦略4 ▶ 生物多様性に寄与する暮らし方の推進

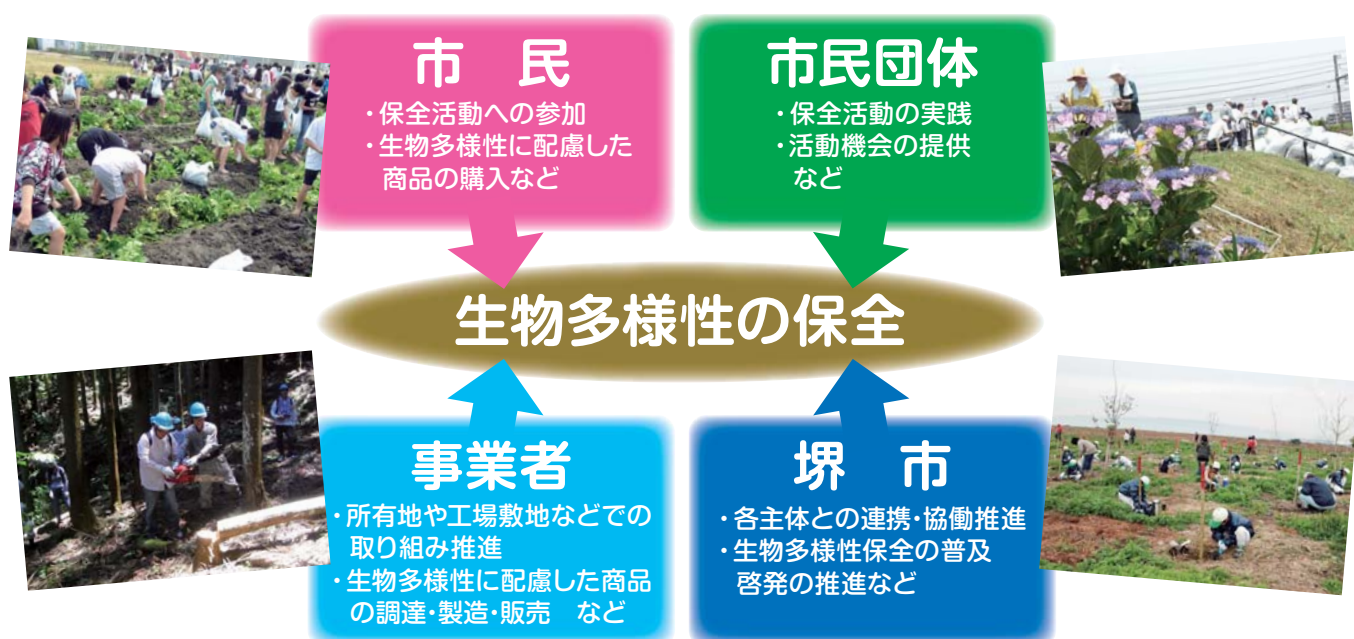
- ・ 生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換を進めます。
- ・ 生物多様性に配慮した活動に参画できる仕組みづくりを進めます。
- ・ 継続的なモニタリングを実施します。
- ・ 「外来生物対策」と「在来生物との共生をめざした事業」を実施します。
- ・ 生物多様性の保全を意識した地球温暖化対策に取り組みます。



在来生物の救出作業（府大池）

それぞれの立場でできること

生物多様性を保全していくためには、各主体がそれぞれの役割を果たしていく必要があります。





生物多様性・堺戦略 ～自然と共生するまちづくりをめざして～ 〈概要版〉

平成25年3月

編集発行／堺市環境局 環境保全部 環境総務課
 〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3-1
 電話：072-228-7440 FAX：072-228-7317
 E-mail：kanso@city.sakai.lg.jp
 堺市行政資料番号 1-I1-13-0184

